



1-218163

Cited Reference No.16 in PCT/IPEA/409

Laid-open Patent Application No. 1-218163 laid open on August 31, 1989

Patent Application No. 63-43487 filed on February 25, 1988

Applicant: Kabushiki Kaisha Ricoh

Inventor: Makoto Tsuji

Title: Facsimile Terminal Equipment

Claim:

1. Facsimile terminal equipment 1 being connectable to the channel of Nihon Denshin Denwa Kaisha or other subscribed channel,

having dial memory for storing addressee telephone numbers corresponding to depression of keys 4b of an operating part 4,

displaying said addressee telephone number on a display part 4e in response to operation of keys 4b of the operating part 4, and

automatically calling via said telephone number in response to a specified key input, in which

access number memory 14 for storing the access number of said subscribed channel is provided,

when said keys 4b are operated, the access number is read from said access number memory 14 corresponding to the times of operation, and

in addition to the telephone number read from said dial memory, the access number is displayed on a display part 4e such that these numbers can be called for.

Other reference numerals in drawing figures:

4c...start key, 11...system control part

⑨ 日本国特許庁 (JP)	⑩ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A)	平1-218163
⑬ 既別記号	⑭ 戻り整理番号
H 04 N 1/00	106 B-7334-5C
H 04 M 1/24	6914-5K
H 04 N 1/32	L-6940-5C審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)
⑬ 発明の名称	⑭ ファクシミリ装置
⑬ 特許願 昭63-43487	⑭ 出願 昭63(1988)2月25日
⑬ 明著者	誠
⑭ 出願人	株式会社リコー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
⑭ 理人	井理士 有我 軍一郎
明細書	1. 発明の名称 ファクシミリ装置
2. 特許請求の範囲	日本電信電話会社の回線の他に契約により使用可能な回線に接続可能で、操作部のワンタッチ・キーに付加して送信先電話番号を記憶するダイヤル装置により操作部のワンタッチ・ダイヤルによる自動発信機能を備える。
3. 発明の詳細な説明	日本電信電話会社の回線の他に契約により使用可能な回線に接続可能で、操作部のワンタッチ・キーに付加して送信先電話番号を記憶するダイヤル装置により操作部のワンタッチ・ダイヤルによる自動発信機能を備える。
4. 発明の効果	日本電信電話会社の回線の他に契約により使用可能な回線に接続可能で、操作部のワンタッチ・キーに付加して送信先電話番号を記憶するダイヤル装置により操作部のワンタッチ・ダイヤルによる自動発信機能を備える。

回線に表示する。その後、スタート・キーを操作することにより、表示中の発先に自動発呼させることができ、送信時のダイヤル操作の便宜性や作業能率が向上され、また、オペレーターは表示部に表示される発先名により送信先を確認することができる。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、このような従来のファクシミリ装置においては、1つのワンタッチ・キーについて1つの電話番号しか登録できないため、登録に際し、1つ1つの回線を特定しなければならなかった。したがって、ある送信先に登録して送信しようすると、から量的な回線を選択して送信しようと1つの送信先に対して各回線毎に1つのワンタッチ・キーを使用して登録しなければならず、従来と同じ数のワンタッチ・キーで登録されたと、登録できる送信先の数が大幅に減少してしまった。それでともに送信先の数が大幅に減少してしまった。

(発明の目的)

ところが、近時、日本電信電話会社(以下、NTTと略す)のファクシミリ端末販売会社(以下、NCCと略す)と併し、算2電電、日本電信電話網および日本テレコムの回線が利用できるようになり、利用できる回線が増加した。

しかしながら、従来のファクシミリ装置においては、1つのワンタッチ・キーについて1つの電話番号しか登録できないため、登録に際し、1つ1つの回線を特定しなければならなかった。したがって、ある送信先に登録して送信しようと1つの送信先に対して各回線毎に1つのワンタッチ・キーで登録しようと、同じ数のワンタッチ・キーで登録されたと、登録できる送信先の数が大幅に減少してしまった。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、このようないくつかのファクシミリ装置においては、1つのワンタッチ・キーにより切り換えて1つのワンタッチ・キーについて2ヶ所の送信先の電話番号を登録するようになっていたため、1つのワンタッチ・キーで送信できるのは該キーに付加して登録された電話番号による相手先だけである。

ところが、近時、日本電信電話会社(以下、NTTと略す)のファクシミリ端末販売会社(以下、NCCと略す)と併し、算2電電、日本電信電話網および日本テレコムの回線が利用できるようになり、利用できる回線が増加した。

そこで、本発明は、ワンタッチ・キーに対応して送信先の電話番号を登録することともに、利用できる回線のアクセス番号をモリに対応してアクセス番号モリによりワンタッチ・キーの操作回数に対応してモリからアクセス番号を読み出し、前記ダイヤルモリから読み出した電話番号にアクセス番号を付加して表示部に表示し、電話番号に付加して表示部に表示することにより、1つのワンタッチ・キーの操作で、登録する回線を選択できるようにして、登録できる送信先の数を増やすことなく、また、ワンタッチ・キーの数を増加させることなく、ワンタッチ・キーの操作性と便宜性を向上させることを目的としている。

(発明の構成)

本発明は、上記目的を達成するため、日本電信電話会社の回線の他に契約により使用可能な回線に接続可能で、操作部のワンタッチ・キーに対応して送信先電話番号を記憶するダイヤル装置により操作部のワンタッチ・ダイヤルによる自動発信機能を備えるようになってきた。

このようないくつかのワンタッチ・ダイヤル装置を用いるには、あらかじめオペレーターが回線番号を登録するには、前記ワンタッチ・ダイヤル装置の操作部から入力してモリに登録する。

このとき、一度に発先名が一様に記憶される。このとき、一度に発先名が一様に記憶され、ワンタッチナンバーに対応して発先電話番号および発先名がモリに記憶される。

このとき、オペレーターが送信したい発先に対応するワンタッチナンバーを操作部のワンタッチ・キーを操作して表示部に表示し、表示部に表示された電話番号に付加して表示部に表示し、所定のキー入力により入力すると、ファクシミリ装置はノモリから該入力ナンバーに対する発先の電話番号を読み出して発先名とともに操作部の表示

おり、ハンドセット5または本体2に設けられた設置台
上にセットされている。

ファクシミリ装置1は、第2図に示すように、
システム上別番号11、システムモリ12、ダイヤル
モモリ13、アクセス番号モリ14、通話制御部15、
調制部16、調制部17、直通モモリ18、符号化・
復号化部19、ブロッタ20、スキャナ21および操作
部4を備えている。

システム制御部11は各部を制御してファクシミ
リ装置としてのシーケンスを実行とともに、
本発明のワントッチ・キー11による電話番号表
示、回路選択表示および自動発行処理プログラム
を実行する。システムモリ12には上記ファクシ
ミリ装置としての基本プログラムおよび本発明の
電話番号表示、回路選択処理および自動発行処理
プログラムが格納されるとともに、ワーカエラー
が形成される。

ダイヤルモリ13には、第3図に示すように、
それぞれのワントッチ・キー4-1に付与されてい
るワントッチナンバー(第3図中左端の部に表
示されているナンバー)に対応させて選ば先の電
話番号(市外番号を含む)が登録されており、ま
た、電話番号の登録された各ワントッチナンバー
に対して後述するアクセ番号の登録番号がフラ
グ盤(第3図中右端の部)に登録される。

アクセ番号モリ14には、第4図に示すよう
に、本ファクシミリ装置1が利用できるNTTの
アクセ番号やNCC各社のア
クセス番号が登録番号(第4図中左端の番号)を
に登録されており、前記ダイヤルモリ13のフラ
グ盤の登録番号がこの左端の登録番号である。

ファクシミリ端のアクセ番号が登録番号1は、選択時あるいは蓄積時
に登録部3にセットされた原稿モスキャナ21で先頭
ページから走査して面情報を読み取り、符号化・
復号化部19に送って符号化・復号化部16でコード
化する。コード化された面情報を、蓄積モードで
は、直通モリ18に蓄積した後、所定の時間に送
信し、同時にモードでは、コード化されるとそのま
ま直通制御部15を介してモチ4-16に送られて受信
された後、開閉部17を介して回線に送出されれる。

用せず、さらに他の回線を利用するときは、再度、ワンタッチ・キー4-10を押す。ワンタッチ・キー4-10が再び表示されると、システム制御部11はアクセス番号モリ11から前回読み出したアクリセ番号以外のアクセス番号を登録番号の早い順に読み出し、同時に電話番号の前に付加して表示部4-1に表示する(第5回(1)参照)。以後、順次、ワンタッチ・キー4-10を押す度に、登録番号の早い順にアクセス番号を読み出し、電話番号の前に付加して表示部4-1に表示する。

オペレータは表示部4-1に表示されたアクセス番号の回線を利用して送信するときには、スタート・キー4-10を押す。システム制御部11はスタート・キー4-10が押されると、表示部4-1に表示中の番号(アクセス番号と電話番号)に付けて発呼するとともに、選定したアクセス番号の登録番号モディファイアモリ13のフラグ間に登録する。次に、モディファイアモリ13が四隅になると、同じスタート・キー4-10が4回押されると、システム制御部11はこの選定され登録された登録番号

に読み出して表示部4-1に表示する。

このように、1つのワンタッチ・キー4-10を押すだけで1つの送信先の電話番号を割り切ることが可能とともに、ワンタッチ・キー4-10を押す毎に利用できる回線を選択することができ、ワンタッチ・キー4-10の枚数を増やすことなく、送信先毎に利用回線を選択することができる。したがって、ファクシミリ装置1のコストを上げることなく、送信時のワンタッチ・キー4-10の操作上の操作性、および便宜性を向上させることができるもの。

なお、上記実験例においては、アクセス番号の読み出し順位を前回選定されたものと最初に読み出しで登録番号順に読み出すことしているが、これに限るものではなく、例えば選定回数順に読み出してもよい。

(結果)

本発明によれば、1つのワンタッチ・キー4-10操作で、利用可能な複数回線の回線から希望する回線を選択することができます。また、送信先毎の操作

用せず、さらに他の回線を利用するときは、再度、ワンタッチ・キー4を押す。ワンタッチ・キー4が押す度操作されると、システム制御部11はアクセス番号モリ11から前回読み出したアクリセ番号以外のアクリセ番号を登録番号の早い順に読み出し、同様に電話番号の前に付加して表示部4に表示する(第5図(1)参照)。以後、繰り返し、ワンタッチ・キー4を押す度に、登録番号の早い順にアクリセ番号を読み出し、電話番号の前に付加して表示部4に表示する。

オペレーターは表示部4に表示されたアクセス番号の回線を利用して送信するときには、スタート・キー4を押す。システム制御部11はスタート・キー4が押されると、表示部4に表示中の番号(アクセス番号と電話番号)に追って発呼するとともに、選定したアクリセ番号の登録番号モバイルモリ13のフラグ値に変更する。次に、同じスタート・キー4が1回押されると、システム制御部11はこの選定された登録番号

一方、ファンタミリ装置 1 は、受信時、回線から入力された西暦情報（駿河番号）をモード 16 で復元し、西暦モリ 18 に蓄積する。西暦モリ 18 に蓄積された西暦情報は、既時、あるいは所定時間に読み出され、符号化・復号化部 19 でコード（次号）された後、プロト 20 に送られる。プロト 20 に送られた西暦情報はプロト 20 により記述性に記憶される。

次に、作用を説明する。

大発明は送信時、ファンタチ・キー 4 トの操作により自動送信する場合の処理にその特徴がある。以下、この送信特の処理について説明する。

送信時、オペレーターは西暦を原稿台 3 にセットし、原稿位置情報をセンサ 4 トや送信キー 4 トで入力した後、送信先の電話番号を操作部 4 のファンタミリ装置 1 に押すことにより入力する。この場合、当該送信先の電話番号の登録されているモード 16 に登録する。登録された電話番号はモード 16 に表示する（第 5 図（b）参照）。

モード 16 はモード 16 のファンタチ・キー 4 トを押すと、モード 16 に表示する（第 5 図（b）参照）。オペレーターはモード 16 に表示されたアクセス番号の回線を用

を増加させることなく、ワントッチ・キーの操作性と便携性を向上させることができるもの。

4. 図面の断面と組立説明

第1図～第5図は本発明のファクシミリ装置の一実体例を示す図であり、第1図はセのファクシミリ装置の断面図、第2図はそのファクシミリ装置の回路ブロック図、第3図はそのダイヤルモードに格納されている電話番号のフォーマット、第4図はそのアクセス番号モードに格納されているアクセス番号のフォーマット、第5図(左)～(右)はそれぞれそのワントッチ・キーの操作により読み出される電話番号とアクセス番号の表示部での表示部様子を示す図である。

1) ……ファクシミリ装置、
2) ……操作部、
3) ……ワントッチ・キー、
4) ……スタート・キー、
5) ……表示部、
6) ……システム制御部、

24

1	0070-
2	0077-
3	0080-
4	161-

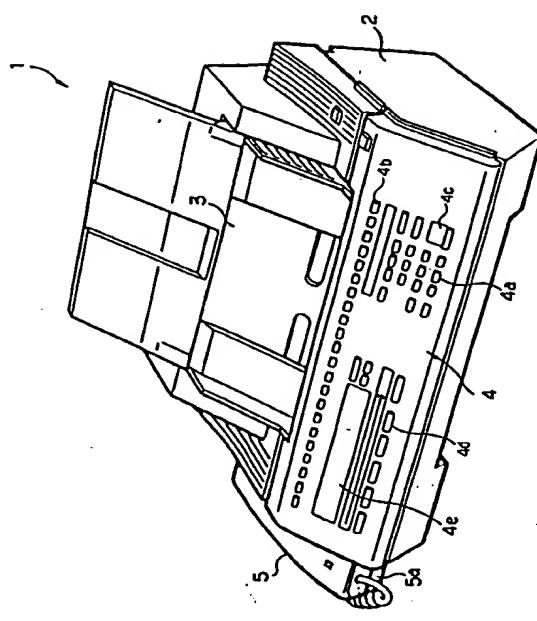
2

ମୁଖ୍ୟମନ୍ତ୍ରୀଙ୍କ ପରିଷଦ୍ୟ ମୁଖ୍ୟମନ୍ତ୍ରୀଙ୍କ ପରିଷଦ୍ୟ

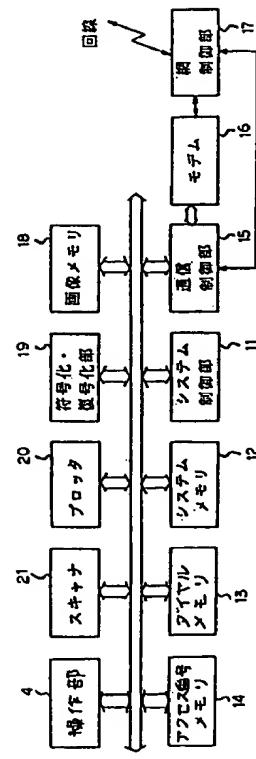
१८८५ अप्रैल १९४८

ପରିବହନ କାର୍ଯ୍ୟ କରିବାରେ ପରିବହନ କାର୍ଯ୍ୟ କରିବାରେ ପରିବହନ କାର୍ଯ୍ୟ କରିବାରେ

第1図



第2図



第3図

No.	電話番号	カラダ
00	03-123-4567	1
01	06-890-1234	2
02	：	：